

第20回 経済学ってなんやろ？



第1回のコラムで「経済学部を卒業しても、女性はまともな職業に就けないと知り、私は医学部に転向しました」と吐露しました。しかし、この転向にはもう一つ大きな動機がありました。それは、私が経済学に疑問を持ったことにあります。経済学は「経済原理」とか「ミクロ経済学」とかの「理論」で解く「お金に関わる」机上の学問で、実証可能な科学ではないのかもしれない?!と疑問を抱いたのです。ということで、科学の真髄に触れたいと医学に転向したのでした。

今回は、経済学は科学か? という長年の疑問に答えを得るため、半世紀ぶりに経済学に光をあてたいと思います。そのために、夫が学部の「金融入門」用に作成中のスライドを借りて、夫とのダイアログで、いやいやへたくそな漫才で話を進めたいと思います。夫が先生役です。聞き手である私の発現はイタリックで書いております。

[スライド1] は、“ヒトの一生は、おおよそ、こんなものでしょう”を示しています。子供の頃は扶養者に養ってもらい、大人になると働いてお金を稼ぎます。定年退職後は2カ月に1回入ってくる年金と、これまで貯めた預貯金を引き出して生活をします。ですから、若い頃からはじまる年金の掛け金の支払いを無視したり、預貯金ができなかつたり、ローンの返済が滞っていたりすると、退職後は大変です。では、実態を見てみましょう。

-----待って。経済学の教科書の最初に出てくる、お決まりの退屈な「用語の説明」とかは無くてもええんやね？！

[スライド2] この図は年代別の預貯金（金融資産）の総額の推移です。緑のバーが1989年、青が2004年、赤が2014年の統計です。50代以下では、この三つの時点の金融資産総額は大きく変わっていません。ところが、60歳以上の高齢者に注目して下さい。最近になるに従って、高齢者の金融資産が増え、2014年では総額が1,000兆円位に達しています。

-----だましてへん？このグラフは、単純に、最近の高齢者の人口比率増を反映してるだけなんやないん？！

[スライド3] お答えします。もっと最近の2019年の統計ですが、実は、世帯当たりでも、世帯主が60歳以上の高齢世帯では、50代以下のそれに比べて高いのです。

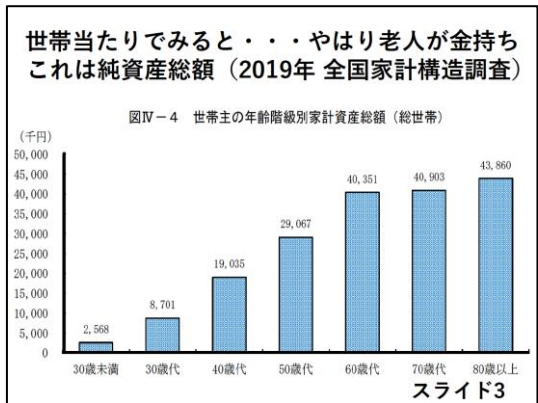
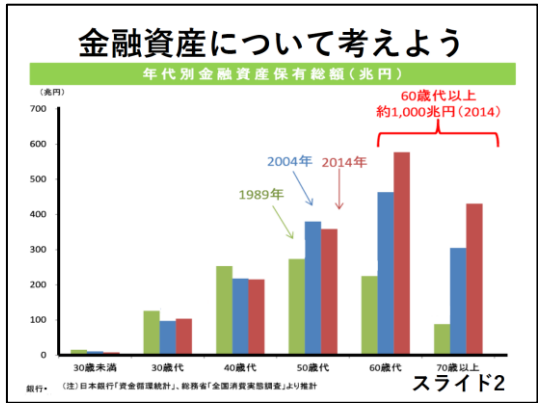
-----またまた騙してへん？！これはさっきのスライドにあった「金融資産」やおて「家計資産」の統計やで！しかも「純資産総額」、つまり負債額を差し引いた「家計資産」やで……そやけど、家計資産が高齢者に偏っていることは確かみたいやねえ。ここでいう「家計資産」て何やのん？「金融資産」は家計資産のうちのどれぐらいの割合を占めるん？住宅ローンなどの「金融負債」はどうなってるん？

皆さんの一生

誕生⇒成人(18歳)⇒引退(65歳)⇒死亡(85歳)

- ・子供の時は親に養ってもらう
- ・成人後は働いて、賃金(所得)を稼ぎ、子供を育てる
年金の掛け金を払い、貯蓄をする
- ・引退後は、年金(60~250万円)と貯蓄の切り崩しで生活
- ・もし、あなたがこれから、年金の掛け金を払わなかったら？
- ・もし、貯蓄ができなかったら？
- ・それどころか、借金(住宅ローン)があったら？

スライド1



[スライド 4] ハイハイ、お待たせしました。お答えします。この統計を見てください。家計資産は、大きく、住宅資産、土地資産、「金融資産」と住宅ローンなどの「金融負債」から成ることが分かります。この図では、「金融資産」は青で、「金融負債」は赤のバーで示しています。この青バーから赤バーを差し引いた「純金融資産」を取り出した統計が次の [スライド 5] です。どうです。

30代で純金融負債はピークになり、50代になると純金融資産が増えて、60代以降は高止まりです。

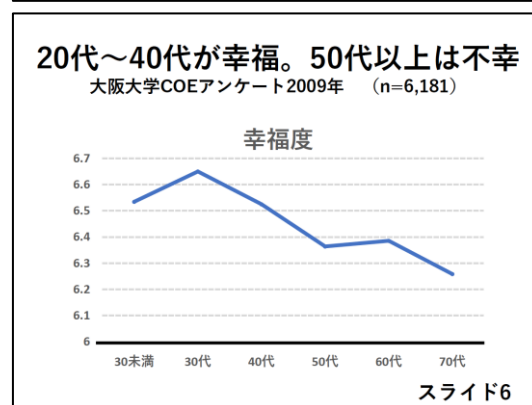
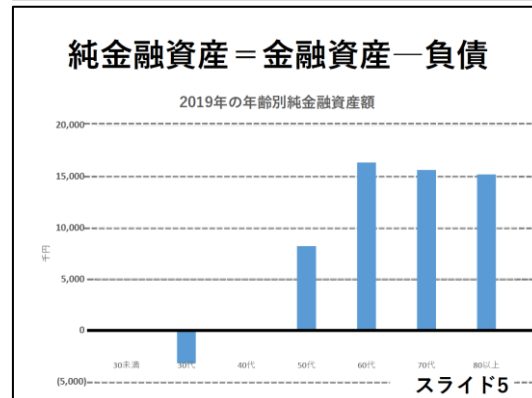
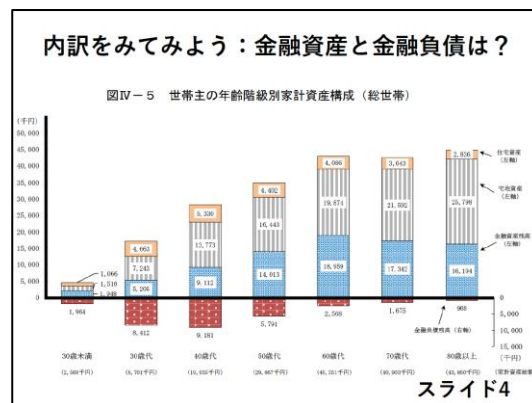
-----高齢者はお金持ちやん。最初のスライドの「皆さんの一生」にあった高齢者の預貯金の取り崩しとかは、どこへ行ったん？
 まあ、それはさておき。年代別の純金融資産統計から推しはかると、30代や40代は不幸せかもしれません。逆に、高齢者は幸せなのかもしれません。ということで、色々な世代の人を対象に、次の質問をして幸福度のアンケートを取りました。

幸福度の質問：全体として、あなたは普段どの程度幸福だと感じていますか。「非常に幸福」を10点、「非常に不幸」を0点として、あなたは何点ぐらいになるとおもいますか。

[スライド 6] いやはや、年代別のお金の統計とは逆に、若い層が幸福で、50歳を過ぎると不幸せなことが分かりました。

----- うん、この結果を見ると、そやね。

では、お金は幸福とは関係ないのでしょうか？あるいは、幸福はお金以外にもいろいろなことに依存しているのでしょうか？



[スライド 7] 年代別の幸福度を男女別で表したグラフです。縦軸が幸福度の高さを示しています。女性がグレーの丸、男性が赤丸、平均が青丸です。これを見ると、お金以外の幸福を決める要因として、性別がありそうです。女性が総じて、幸福度が高い。でも、60代が特異点で、男性の幸福度が高くなり、男女差がなくなっています。

-----ヘッ?!なんでや?

[スライド 8] 60代が定年退職年齢であることを考えると、仕事を辞めることで幸福になっているのかもしれませんが。ということで、60代で働いていない人と働いている人の幸福度を比較しました。その結果、働いていない人の方が幸福度が高いことが分かりました。同じように、専業主婦は働いている女性より幸福度が高いことが分かったのです。

-----えっ!ということは、仕事は人を不幸にするんや。

[スライド 9 と 10] 続いて、お金は幸福度と関連するかを明らかにするために、所得や金融資産額別での幸福度を調べてみました。

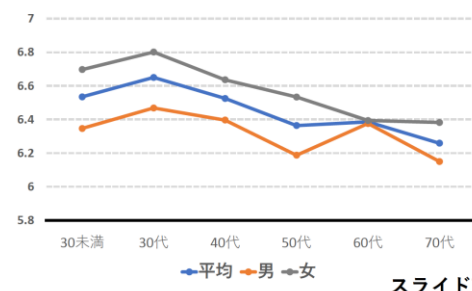
-----所得が多いほど幸福やし、金融資産が多いほど幸せみたいやね。

そうなのです。

お金(金融資産や所得)は幸福になるために必要だといえそうです。

でもそれだけでは十分ではなく、幸せになるには、お金以外のことも重要みたいです。例えば、仕事は人々を不幸にするらしい。

たとえば、男は女より不幸でも、60代は幸福になってるね。なぜ?

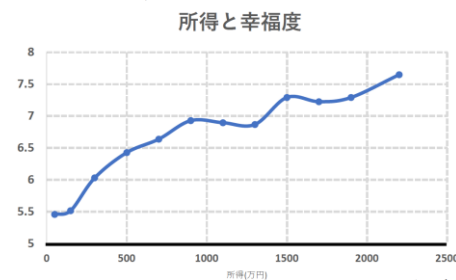


仕事は人を不幸にするらしい

- 60代で働いている人の幸福度は引退している人より低い (6.38 vs 6.60)
- 60代で男性の幸福度が上がっているのは、引退したからかもしれない。(もう少し調べないとわからないけれど)
- 女性で専業主婦は働いている女性より幸福 (6.78 vs 6.52)

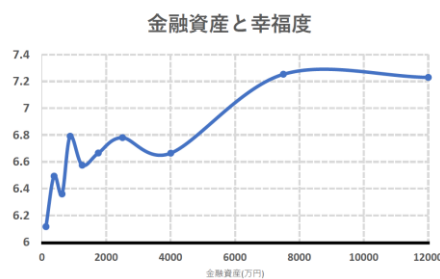
スライド8

お金は幸福と関係ないの? いやいや、所得が多いほど幸福!



スライド9

金融資産が多いほど幸福



スライド10

-----お金って、人の幸不幸にも関わって、奥が深いんやね。そやけど、なんで高齢者に資産が偏るようになったん？スライド2の説明で、60歳以上の高齢者は1,000兆円の資産を保有してるって言うてたやん。国家予算の10年分やで。なんでそんなに偏るん？

ハイーッ？こだわりますねっえ……。えーっと、この問題は、みなさんへの宿題とします。

-----本日の締め。経済学は「人のいとなみを説明する科学」なんやね。納得、納得。ということは、私が諦めた経済学も、この半世紀で、科学に進化したんやね。

余韻に浸って一言：臨床研究で大活躍のランダム化比較試験 (RCT) が、経済学でも研究手段として使われはじめ、例えば「貧困」が持つ新たな側面が明らかになりました。ダイバーシティ推進室所蔵の貸出図書の中にも、その第一人者が書いた読み物があります。興味のある方はご連絡下さい。くどいですが、これは論文や研究書ではなく、読み物です。

バナジーAV & デュフロ E 「貧乏人の経済学 Poor Economics: A Radical Rethinking of the Way to Fight Global Poverty」

デュフロさんは数少ないノーベル経済学賞 (2019年) の女性受賞者で、バナジーさんはその夫です。

夫からの伝言：幸福度に関するスライドは、傾向を知るためにざっと計算した結果です。精査はこれからです。